



「? (なんで)」には

つづ

続きがあった！！

しら

さあ、調べてみよう！



にやんでたろう



せんせい
フクロウ先生

年 組 なまえ

発行：和泉市立図書館

しら がくしゅう 調べ学習ってどうやってするの？

なつやす じゅうけんきゅう しら がくしゅう すす
夏休みの自由研究や調べ学習ってどうやって進めたらいいのかな？

テーマを決める→しら き しら がくしゅう なが
調べ→まとめる、これが調べ学習の流れだよ。

それぞれのポイントをおさえてチャレンジしよう！！

しら がくしゅう なが 調べ学習の流れ

1. しら き
調べる「テーマ」を決めよう



2. よそ
予想しよう



3. しら
調べる



4. しら ないよう
調べた内容をメモしていこう



5. さくひん しあげ
作品を仕上げよう

< 1. 調べる「テーマ」を決めよう >

① 「？」がつくものを、さがしてみよう。

自分でかんがえても、答えが「わからないもの」をさがしてみよう。

ずっと前からフシギ？だったこと、テレビを見ていて「これはなんで？」と思
ったこと…それが調べる時の大きな「テーマ（自分が調べたい「こと」や「も
の」）」になるよ！調べる学習のテーマは自由。

自分が面白いと思ったものや、楽しんで調べられるテーマを探そう！

テーマを決めるときの注意！！

*他の人が「へーえ！」「おもしろーい！」と思うかどうか考えてみよう

*なるべく自分で調べられることを考えよう

☆ 気になっているテーマを、いくつか書いてみよう

☆ 上のテーマの中から本当に調べたいと思うテーマを決めよう

テーマ

② ①で決めた「テーマ」を使って疑問文を作ってみよう。

調べたい「テーマ」が決まっても、その「テーマ」について何を調べたいのかわからない…って時は、まずはその「テーマ」を使って疑問文を作ってみよう！

疑問文ができれば、自分が本当に調べる「テーマ」がだんだんわかってくるよ。たとえば、「いつ」「だれが」「どこで」「なぜ」「どうやって」といった【？】がついた文だったり、または「〇〇〇と△△△を比べてみると、違いはあるのかな？」などでもいいよ。

どうやって疑問文を作ればいいのかわからない…って時の方法をいくつか教えるよ。いろんな方法があるから自分が作りやすいものを使ってみてね！
さあ、疑問文を作ってみよう！

もし1つのテーマで行きづまってしまったら、その周りのことも調べてみるとヒントになるよ！



— 疑問文の作り方① —

【百科事典などで「テーマ」の基本的なことを調べてみる】

たくさんの種類の出来事が書いてある本『百科事典』などで「テーマ」の基本的なことについて調べてみよう！

百科事典に書いてある文のなかで、「面白そう！」「すごい！」「なんで？」
と思ったり、「もっと知りたいなあ！」と思ったりはなかったかな？
それがきみの調べるテーマになるよ！

なぜ『百科事典』が役にたつの？

- いろんな「言葉」がのっている
- 「言葉」がわかりやすく、短い文でまとめてある
- あいうえお順に並んでいるから「言葉」が見つけやすい

たとえば、好きな【きょうりゅう】について
調べてみようと思ったら…

【きょうりゅう】だと、テーマが
大きすぎるので【きょうりゅう】の何について
調べるのかを決めてみよう！

種類かな？生活かな？体の大きさ？

それとも、食べ物かな？いなくなった理由かな？



☆ 百科事典に書かれている言葉で気になる言葉を見つけてみよう

☆ 気になる言葉とテーマの言葉を使って疑問文をつくろう

疑問文

?

— 疑問文の作り方② —

【テーマから思い浮かぶ言葉を書いていく】

気になったテーマから思い浮かぶ言葉をいろいろ考えてみよう！

その中から、特に気になった言葉とテーマを合わせて疑問文を作ることが出来るよ。

<例>

The diagram shows a process of creating a question sentence. It starts with a theme 'きょうりゅう' (kyouryuu) in a rounded rectangle. Next to it are three ovals containing the words 'つめが大きい' (tsume ga ookii), 'しゅるい種類' (shurui shurui), and 'たべもの' (tabemono). Below these are three more ovals containing the words '大きい' (ookii), 'いる' (iru), and 'つよい' (tsuyoi). To the right, the words 'ぎもんぶん' (gimonbun) and '疑問文' (gimonbun) are written. Below that, the example question sentence 'きょうりゅうのおおきさはどれくらい' (kyouryuu no oookisa wa dorekurai) is written.

[上の例のように自分の選んだテーマとテーマから思い浮かんだ言葉を書いていこう]

The template consists of a large rounded rectangle on the left containing the word 'テーマ' (tema). To its right and below are nine empty ovals arranged in a 3x3 grid, intended for writing words related to the theme.

☆ 調べるテーマと気になった言葉を使って疑問文をつくろう

ぎもんぶん
疑問文

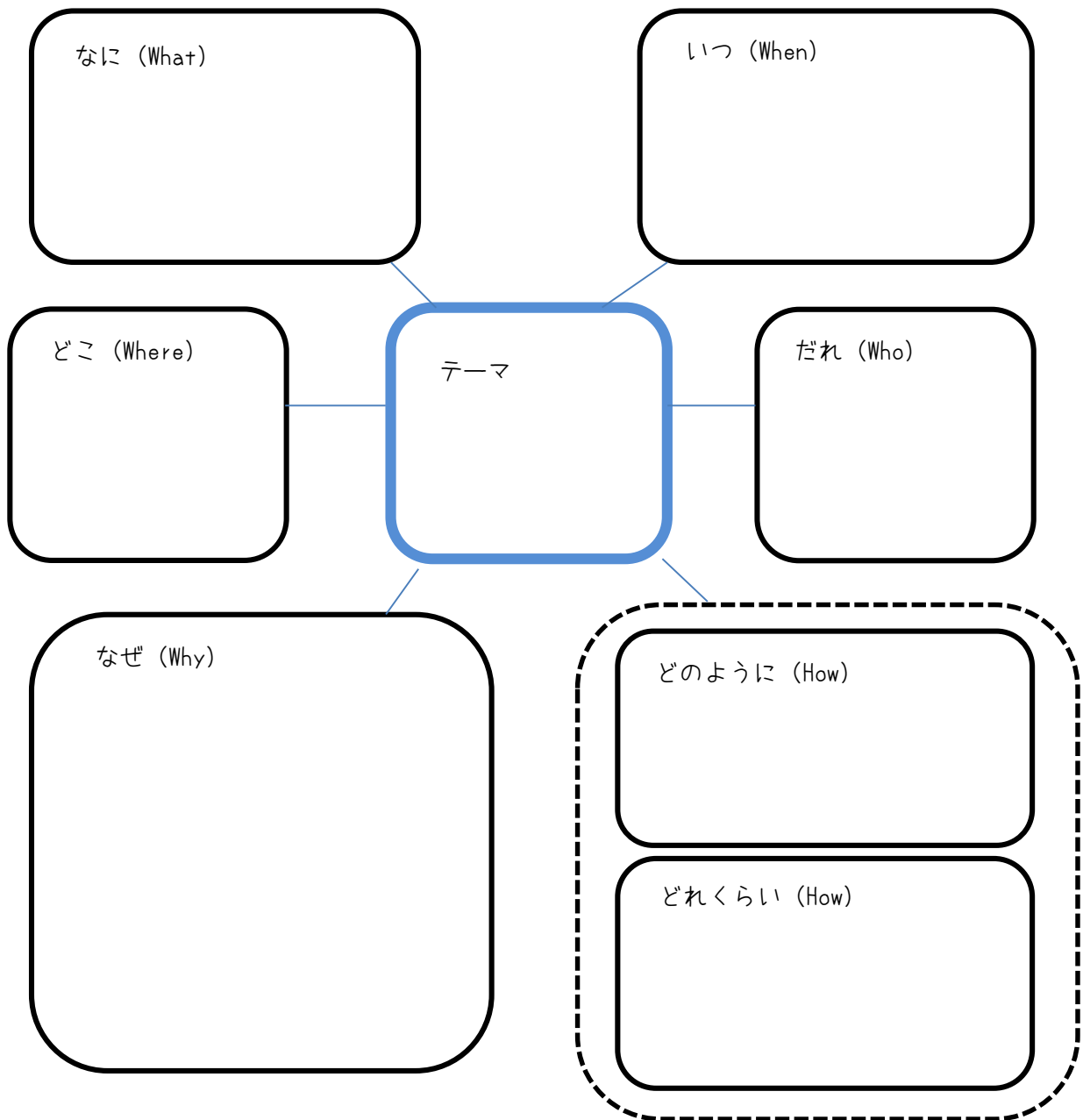
?

— 疑問文の作り方③ —

【5W1Hマップ】

周りまわにある問いかけとを作って疑問文ぎもんぶんを作つくってみよう！

見みつからないところはそのまま空あけておいてもいいよ。



☆ 作つくった疑問文ぎもんぶんの中なかから自分じぶんが調しらべてみたいと思おもったものを選えらんでみてね。

疑問文ぎもんぶん

?

<2. 予想しよう>

調べるテーマが決まったら、なぜそのテーマを選んだのか「きっかけ」を書いておこう！

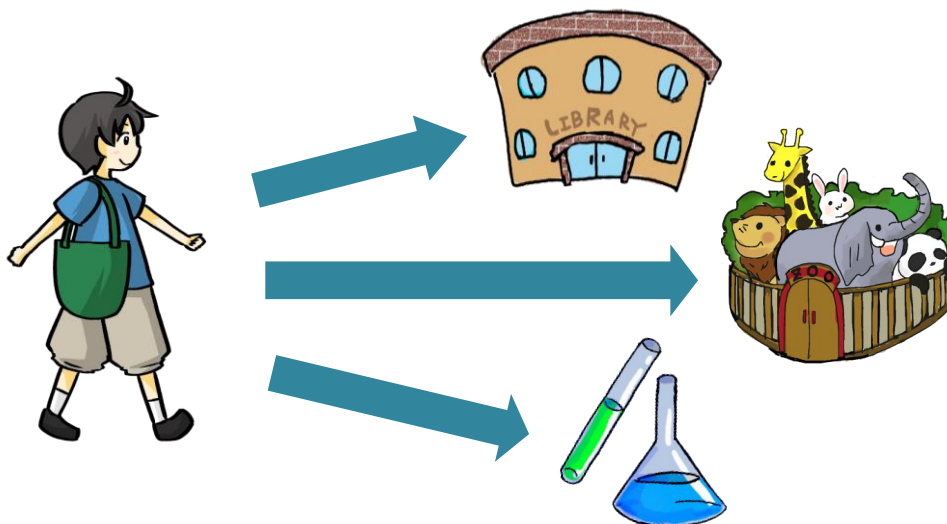
また、調べた結果はこうかもしれないあと予想も一緒にしてみよう！
なぜそんな風に予想したのかを考えると、頭の中が整理されて何から調べたらいいのか、どこをどうやって調べればいいかがわかってくるかも…。

☆ 自分が調べるテーマを使った疑問文を書こう

☆ このテーマに決めた「きっかけ」は何かな？

☆ このテーマの結果を予想してみよう

☆ なぜそんな風に結果を予想したのかな？



< 3. 調べる >

① 調べはじめる前に準備をしよう

1. 調べる方法を考えてみよう

調べるテーマが決まったら、そのテーマを調べる方法を考えてみよう。

本を使って調べるのが良いのかな？それとも実験が必要？博物館などに行ったほうが良いのかな？…調べるための方法はたくさんあるよ。

自分が調べるテーマはどんな方法で調べるのが一番良いかよく考えてみよう。

2. 計画を立てる

調べるためにはどんな準備が必要で、どのくらい時間がかかるか考えてみよう。

博物館に行けば新しい発見があるかもしれないし、何日もかけて観察しないとわからないこともあるよ。作品提出の期限に間に合うようにしっかり計画を立てておこう。

3. 必要な道具の準備をする

実験をしないと結果がわからないテーマであれば事前にしっかり準備を整えておこう。必要な物があれば、まずは自分の家にあるもので使える物がないかどうかをお家の人に聞いて探してみよう。

4. メモしておかないといけない項目を考えよう

調べていく時に自分がメモしておかないといけない項目があれば書き出しておこう。

後から作品としてまとめる時に、「あっ調べ忘れてる！」ってことがないように、最初にどんなことをメモしておかないといけないのかを考えて書き出しておこう。

5. 先生や家族に相談しよう

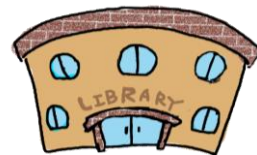
自分でわからないことや遠くにある博物館に調べに行きたい時、専門家の人に聞いたことがあるなど自分の力ではできない調べものがある時には、大人の人に聞いてみよう。もし、本で調べる時に困ったことがあれば図書館の人に聞いてみてね。

② 調べてみよう

調べるために準備はできたかな？では、さっそく調べてみよう！

調べる方法は大きく分けて3つあるよ。

●近くの図書館や学校の図書室で色んな本で調べる



まずテーマについて書いてある本を読んで調べてみよう！

テーマについて基本的なことを百科事典や図鑑などで調べ、その他につなげていこう。新聞や雑誌なども重要な情報源になるよ。

見つけた1冊の本に調べたいことが全部書いてあったとしても、他の本を見れば違うことが書いてあるかもしれないよ。必ずたくさん本から情報を集めてみようね！

本以外の方法を使って調べた後でまた本で確認することも大切だよ。

本があるところといえば図書館だね。図書館には色んな本があるよ。もし探している本が見つからないときは図書館の人に聞いてみてね。

●インターネットで情報を集める

インターネットで調べる時は、その情報が正しいかどうか気をつけよう！

間違った情報が載っていることもあるので、見つけた情報をそのまま使わずに、他のものと見比べて自分で判断するようにしよう！

この情報が正しいかどうか判断が難しい時には大人の人に聞いてみよう。

使える

- ・公共機関が作っているホームページ
- ・責任を取る人がはっきりしている情報

使えない

- ・誰が書いたかわからないもの
- ・本当かどうかわからないもの
- ・連絡先がわからないもの

●見る、聞く、試す、経験する（自分のテーマにあった方法で調べよう）

・実験しよう、観察しよう

植物や昆虫、動物などを調べる時は、観察や実験も良い方法だよ！

どんな方法があるか、どれくらいの時間がかかるかなどを

調べて、道具をそろえて計画してから始めようね。

思うようにいかないこともあるかもしれないけど、

失敗も大切な結果なので、きちんと記録しておこうね。



・博物館・動物園・資料館などに行こう

実物に触れたり、専門の資料などを見ると、

ものの見方や考え方が広がることもあるよ。

その時の自分の気持ちもメモしておくよ、

まとめる時に役立つよ。

お家の人に頼んでどこかへ連れていってもらっちゃおう！



・専門家に聞いてみよう

詳しい専門家の人などに手紙を出せば、返事がきて疑問に答えてもらえるかもしれないよ。もし、会ってくれることになったら、どんなことが知りたいのか、あらかじめ質問をまとめておこう。

アンケート調査をして、結果をまとめるのもいいね。



*インタビューやアンケートをする時は、個人情報に気を付けよう！

インタビューなどで話を聞かせてもらう時は、必ず「作品に載せてもよいか」「名前を載せてもよいか」を相手の人に確認しようね！

もし、写真も載せたい時には、「写真を撮ってもよいか」「写真を作品に載せてもよいか」を相手の人に確認しよう！

また、写真を撮ってもよい場所かどうか、周りにも気を付けようね。

許可が必要な時は、必ず許可をもらおう！

作品に撮った写真をのせる時は、「いつ、だれが撮ったか」を書いておこうね。

(⇒例：2014年8月1日 お母さん撮影)



< 4. 調べた内容をメモしていこう >

探していた答えが見つかった時には必ずメモしておこう！

そんな時に役立つ「情報カード」が次のページにあるよ。

このカードにメモしていくことで最後のまとめがうんとやりやすくなるから、ぜひ使ってみてね。

最後にまとめる時には、「調べてわかったこと」と「自分の感じたことや考えたこと」をわけて書いておくとまとめやすくなるよ。必ず調べたことに関して自分が考えたことや思いついたこと、なんでもいいから書いておこう。ただし、情報カードにメモする時や作品を仕上げる時に注意するポイントがあるからよく読んでね。

情報カードの記入例

NO. 1 29年 7月 1日 (土)

課題 (テーマ) きょうりゅう		
調べること きょうりゅうの大きさはどれくらいかな？		
調べてわかったこと (引用するときは「」をつけて書きましょう) <div style="border: 2px solid red; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%; color: red;"> <p>ポイント①</p> <p>調べた文章をそのまま使いたいときは必ず「引用」か「要約」を使って書いておこう。</p> </div>		
自分の感じたことや考えたこと <div style="border: 2px solid red; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%; color: red;"> <p>ポイント②</p> <p>「調べてわかったこと」を見つけた時に自分がどう思ったか、何か他に気になることはなかったか、どんなことでもいいので、少しでも書いておきましょう。</p> </div>		
参考文献	本・雑誌・(新聞)	
	書名(新聞記事名)	
	著者名(記者名)	請求記号(朝刊/夕刊)
	出版社(新聞紙名)	出版年(新聞の日付)
	調べた場所(図書館名)	利用したページ P.
	インターネット	タイトル
情報を確認した日	<p>ポイント③</p> <p>使った資料の種類によって記入する場所が違うのでP. 15~16を見て書こう。「参考文献」のリストを最後につけることになっているので、この部分は忘れずに記入しておいてね。</p>	
URL http://		
情報キーワード		

じょうほう
情報カード (したしら とき つか
※下調べの時にコピーして使おう)
 NO. 年 月 日 ()

<small>かだい</small> 課題 (テーマ)
<small>しら</small> 調べること
<small>しら</small> 調べてわかったこと (<small>いんよう</small> <small>か</small> <small>引用</small> するときには「」をつけて書きましょう)
<hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <small>じぶん</small> <small>かん</small> <small>かんが</small> 自分の感じたことや考えたこと

<small>さん</small> <small>こう</small> <small>ぶん</small> <small>けん</small> 参考文献	<small>ほん</small> <small>ざっし</small> <small>しんぶん</small> 本・雑誌・ (新聞)	<small>しよめい</small> <small>しんぶんきじめい</small> 書名(新聞記事名)		
		<small>ちよしやめい</small> <small>きしやめい</small> 著者名(記者名)	<small>せいきゆうきごう</small> <small>ちようかん</small> <small>ゆうかん</small> 請求記号(朝刊/夕刊)	
		<small>しゅっぱんしゃ</small> <small>しんぶんしめい</small> 出版社(新聞紙名)	<small>しゅっぱんねん</small> <small>しんぶん</small> <small>ひづけ</small> 出版年(新聞の日付)	
		<small>しら</small> <small>ぼしよ</small> <small>としよかんめい</small> 調べた場所(図書館名)		
	<small>りよう</small> 利用したページ P. ~ P.			
	<small>いん</small> <small>たー</small> <small>ね</small> <small>っ</small> <small>と</small> インターネット	<small>さくせいしや</small> タイトル・作成者		
		<small>じょうほう</small> <small>かくにん</small> <small>ひ</small> 情報を確認した日		
		URL http://		
<small>じょうほう</small> 情報キーワード				

【情報カード活用のポイント】

- ① 1枚のカードには1つの情報だけをメモしていく
- ② 「調べたいこと」が同じでも資料ごとでカードを分けて記録しよう
「調べたいこと」が同じで何冊かの資料を使って調べた時は資料ごとに情報カードをわけてメモしておこう。
- ③ 情報をメモする時には、無理に要約や箇条書きをしようとしたりせずにとりあえず後から自分が読んでわかるようにメモしていこう
- ④ 参考文献は必ず一緒に記録しておこう

—「著作権」に気をつけよう！！—

* 「著作権」ってなに？

「調べてわかったこと」を書く時には、注意してほしいことがあるよ。
他の人が書いた文章をそのまま丸写しして、まるで自分が書いた文章のよう^{つか}にして使うことはできません。

本や新聞、雑誌、インターネットにのっていた文章は、他の人が勝手に使えないように、「著作権」というもので^{まも}守られているよ。文章の他にも、ポスターや絵画、まんが、写真、歌などにも「著作権」があって、同じ様に法律で^{まも}守られているよ。

…でも、作品を仕上げる時にそのまま使いたい文章がある時はどうしよう？
そんな時は、「引用（そのまま書き写すこと）」と「要約（要点をまとめて書きとめること）」というワザ^{つか}を使おう！

—「引用」「要約」を使ってみよう—

* 「引用」「要約」ってなに？

< 「引用」 (そのまま書き写すこと) >

自分の考えを説明する時に他の人が書いた文章を使って説明することを「引用」といいます。「引用」したい時には、その文章が本から借りたことがわかるようにしなければいけないよ。

「引用」する時は、自分の文章と区別するために書き写した文章を「」や“ ”を使って書き、書き写した文章の後にその文章がのっていた本のタイトル・出版社・出版年・ページ数を記入すれば「引用」はできあがります！

この調べる学習の作品には「参考文献」のリストをつけることになっていきますので、タイトルや出版社などを書く代わりにそのリストで使った番号を書いても大丈夫だよ。

⇒例：「そして、それからというもの、井戸は村で大切に使われ、やがて、若樫村の弘法井戸とよばれるようになりました。」(④) または
(和む研究室『和泉のむかしばなし』和泉市立和泉図書館 2014年 p.15より引用)

【「引用」する時のポイント】

- ① そのまま抜き出した文章には「」や“ ”などの記号をつけよう
- ② 抜き出した文章の後には必ずどこから抜き出した文章なのかを書いておこう
- ③ 抜き出す時は漢字やひらがな句読点など、文字や言葉も変えずにそのまま抜き出そう

< 「要約」 (要点を自分の言葉でまとめて書くこと) >

「要約」は、本の中の「自分にとって大切な文章」を短くして他の人が読んでも理解できるようにまとめるということだよ。

要約する時のコツは、最初に自分が何についてまとめているのかを説明しておくことだよ。「これは〇〇について書かれている」ということをまず説明してから、次に大切なところを短く自分の文章でまとめて書こう。まとめるためには「いつ」「だれが」「何を」「なぜ」「どのように」をはっきりさせて文章を作ろう！文章を短くするのが難しい時は、下のポイントも読んで文章を作る参考にしてみてね。

【要約の3つのポイント】

① 選ぶ

文章の中から自分の必要なことが書かれている部分を見つけよう。
(重要なことが書かれている文章は、段落の最初や最後に書かれていることが多いから注意して読んでみてね。)

② 減らす

【「減らす」ための5つのわざ】

1. 語尾を変える

例) 「です。」「ます。」 → 「～だ。」に変える

2. 接続語(つなぐ言葉)を減らす

3. 修飾語などの不要な言葉を減らす

4. 別の言葉に言い換える

5. 不要な情報を減らす

③ つなぐ

【「つなぐ」ための4つのわざ】

1. 自分が選んだ必要な言葉の順番を考える

2. 接続語(つなぐ言葉)を入れる

3. 分かりやすく伝えるために足りない言葉を足す

4. 最後にまとめの文を付け足す

—「参考文献」を書こう—

* 「参考文献」ってなに？

下調べの時に自分にとって必要な情報が載っていた本や新聞・パンフレットなどを「参考文献」と言います。

もちろん「引用」「要約」などで参考にした本も「参考文献」です。

まとめる時、自分がどの資料で何を調べたかわかるように、図書館に本を返す前に必ず「参考文献」をメモしておこう！

調べる学習の作品には他の人が見たときに何の本を使って調べたかわかるように、必ず作品の最後に「参考文献リスト」を付けることになっています。

「参考文献」をメモする時は、「参考文献リスト」に記入しやすいようにメモしておく簡単にリストを仕上げることができるよ！

メモする場所は調べ学習に使用した資料によって違ってくるので、次のページを見ながらメモしていこう！

* 「参考文献リスト」の書き方①*

[本の場合]

本の最後のほうに「奥付」という、本を作った人や団体のことを書いたページがあるよ。その奥付の中から大切な5つのことを書き写しておこう！

① 著者名（本を書いた人の名前）

② 書名（本の名前）

③ 出版社（本を出した会社の名前）

④ 出版年（本ができた年）

⑤ 図書館名（本を借りた図書館の名前）と請求記号

請求記号とは、図書館の本には貼ってある背ラベルの数字のことです。



②

いずみ
和泉のむかしばなし

④

平成 26 年 5 月 15 日 第 1 刷発行

①

再 話 和む研究室

発 行 者 太田勝久

③

発 行 所 和泉市立和泉図書館
指定管理者 株式会社図書館流通センター

〒594-0071
大阪府和泉市府中町一丁目 20 番 1 号
電話 0725-44-3071

印刷・製本 ちよ古つ都製本工房

©2014 Nagomu Kenkyushitsu Printed in Japan

⑤

さんこうぶんけん か かた
* 参考文献リストの書き方② *

しんぶん ばあい
[新聞の場合]

① 記事を書いた人の名前

↑ 記事の最後に名前が書いてなければ書かなくてOK!

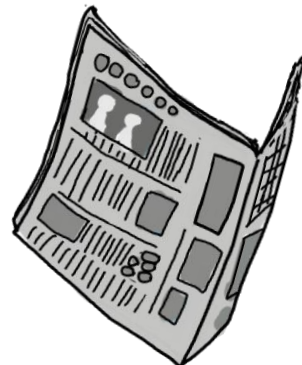
② 新聞記事名

③ 新聞紙名

④ 記事の出た年月日

⑤ 朝刊か夕刊か

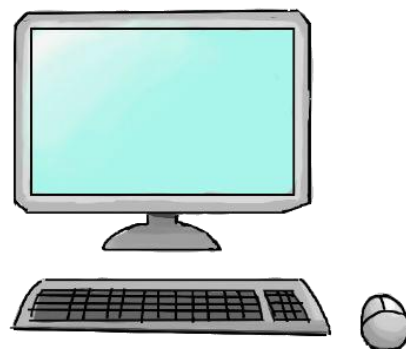
⑤ ページ (面)



* 参考文献リストの書き方③ *

[インターネットの場合]

- ① Web ページを作成した人・団体名
- ② Web ページ名
- ③ Web サイト名
- ④ 更新年月日
- ⑤ URL (ネット上のアドレス)
- ⑤ アクセス年月日



< 5. 作品を仕上げよう >

1. 情報カードを整理しながら作品の構成を考えよう

全部調べ終わったから作品を作ろう!!...でも、情報カードはいっぱいあるけど、どこからどうやって作品を作っていけばいいのかわからない...って思っていますか?

そんな時は、まず情報カードを整理していきましょう。

① 作品のテーマを確認しよう

情報カードを並べてみて、もう一度最初に決めたテーマで作品を作って良いのかどうかを考えてみよう。調べていく内に他に気になるテーマはなかったかな? 何について調べたかったのかをもう一度よく考えることで、まとめる順番やまとめる内容などがだんだん決まってくるよ。

② 情報カードを整理していく

1. 同じ内容や似ている内容が書かれているカードごとに分ける

2. 1. で分けたグループごとにタイトル(名前)をつけてみる。

グループに共通する特徴などをタイトルにしても大丈夫。このグループの名前は作品の目次の「素」にもなるからつけてみてね。

③ 作品の構成を考える

グループの名前などを参考に、分けた仲間のカードをどのような順番で
まとめていくかを考えよう。

作品を組み立てながら、足りない情報の整理や、足りない情報などがあれば追加していこう。

2. 作品の形を考える

自分の調べた内容を作品としてまとめることは、調べたことを他の人に教えるために必要です。どのような形で作品を仕上げるか迷った時は、どのように自分のテーマを伝えればみんなに伝わりやすくなるのかを考えよう。

作品にするためには必ず書かないといけない項目があります。その項目をどのように書いていくのかも考えながら作品の形を選ぼうね。

【作品例】

◆ 模造紙

1枚で収まるように作品を作ること、作品の全体を一度に見せる事が出来る。
大きさが違うもの（写真や絵など）でもそのまま貼れる。
貼りつける物の位置や字の大きさなどによって、自分らしい作品を作りやすい。

◆ ノート

本のように作品を仕上げる事が出来る。
調べた項目ごとでページを分けるなどいろんな工夫をすることで、
他の人が読みやすい作品またはわかりやすい作品に仕上げることができる。

3. 作品を仕上げる

作品として仕上げる時には必ず書かなければいけないことが、いくつかあるよ。次のページを参考にして自分らしくまとめてみよう！

文章だけで調べたことを説明するのではなく、写真やイラストなども入れながら自分の発想でまとめて、楽しいオリジナル作品にしよう！

コンクール作品を作るときの決まり！！

- ◇ 作品に使う用紙は、最大B4サイズの大ききで作ってね。
- ◇ 模造紙など大きな紙で作る場合は、折りたたんで出してね。
- ◇ ページは50ページ以内で作ろうね。ページがバラバラになってもみんなが読めるように必ずページ数は書いておいてね。
- ◇ 表紙・目次・参考文献リストは、必ず付けることになっているよ！ただし、表紙・目次・参考文献リストはページ数に入らないから気をつけてね。
- ◇ 集めた情報をまとめた部分を別冊として一緒に出すことができるよ。
- ◇ 作品を作る時には2B以上の濃い鉛筆を使ってね。色鉛筆などでイラストの色をぬる時にも、なるべく濃く色を塗ってね。

応募カードも忘れずに書いてね！

作品が完成したら学校で配られた、調べる学習コンクールのチラシにある応募カードを書こう！

応募カードは、作品の裏表紙にのりやテープで貼りつけておいてね。

① タイトル・学校名・名前

『タイトル』

「テーマ」をそのまま
書くのではなくみんなに
見てもらえるような
楽しい「タイトル」を
つけてみよう！！

がっこうめい ねん なまえ
学校名 ○年○組 名前

② もくじ

もくじ

はじめに …p. ○
○○について…p. ○
△△について…p. ○

おわりに …p. ○
さんこうぶんけん
参考文献 …p. ○

③ はじめに

はじめに

なに しら おも
・何を調べようと思ったか
えら りゆう
・このテーマを選んだ理由
いちばんし
・一番調べたいこと
しら まえ よそつ かんが
・調べる前の予想、考え

④ 本論(調べたこと)

◆まとめるコツ◆

- ・何をどんな風に調べたのか、調べていく中で思ったことや大変だったこと、うれしかったことや発見などを書こう。
- ・むずかしい言葉は、分かりやすい言葉に変えようね。
- ・「引用」の書き方「要約」の使い方は間違っていないかな？
- ・絵や写真も入れてみよう。
- ・実験や観察をした場合は、その方法や様子も書こう。

ほんろん
本論 (しらべたこと)

⑤ おわりに

おわりに

- ・わかったこと
- ・考えたこと
- ・感想
- ・次回のテーマなどもし
今回調べきれなかった
ことがあればこの部分
で書こう。

⑥ 参考文献リスト

さんこうぶんけん
参考文献リスト

P. 23 を
見てね

* 参考文献リストの記入例 *

調べる学習の作品には他の人が見たときに何の本を使って調べたかわかるように必ず作品の最後のページに「参考文献リスト」を付けることになっています。これがないと調べる学習の作品は完成しないよ！

情報カードにメモしておいた「参考文献」を見ながら、「参考文献リスト」を記入していこう！引用した資料も参考文献になるので忘れずに！！

（「参考文献リスト」の用紙は【図書館振興財団】ホームページにある、調べる学習コンクールのページからダウンロードできるよ！わからないときにはおうちの人に手伝ってもらってね。）

<参考文献リスト記入例>

参考・引用文献リスト (本を参考にした場合)		作品名: 調べる学習コンクールのしおり あなたの名前: 和泉図書館				
NO.	著者名	書名	出版社名	出版年	ページ	図書館名とせいきゆう記号
1	赤木 かん子 文 すがわら けいこ 絵	図書館へいこう！ 3 テーマって…どうやってきめるの？	ポプラ社	2007年8月		和泉図書館 015
2	紺野 順子 文 こば ようこ 絵	シリーズわくわく図書館 3 図書館でしらべよう	アリス館	2010年9月		和泉図書館 010
3	赤木 かん子 著	調べ学習の基礎の基礎	ポプラ社	2006年2月		和泉図書館 017
4	赤木 かん子 著 m i t t y 絵	本で調べてほうこくしよう	ポプラ社	2011年1月		和泉図書館 015
5		図書館の学校 2013年夏号	図書館 振興財団	2013年6月		和泉図書館 雑誌
6	和む研究室 再話	和泉のむかしばなし	和泉市立 和泉図書館	2014年5月	P. 14	和泉図書館 雑誌
7	赤木 かん子 著 塩谷 京子 著	しらべる力をそだてる授業	ポプラ社	2007年		和泉図書館 017

**ページは、
本から引用した時だけ書くよ！**

ていしゅつ まえ 提出する前にチェック！！

- 表紙に、作品のタイトル・学校名・学年・名前を書いた？
 - 各ページのページ数をつけた？
 - 目次は書いた？
 - “テーマを決めたきっかけ” や “予想” は書いた？
 - “どうやって調べたか” を書いた？
 - 本の文章を借りたところは「引用」のルールを守った？
 - 調べてみて感じたこと（大変だったこと、嬉しかったこと）を書いた？
 - 参考文献はいくつかの本を使った？
 - 参考文献リストを書いた？
 - 調べた図書館名を書いた？
 - 裏表紙に応募カードを貼った？
- 応募カードは「図書館を使った調べる学習コンクール」のチラシにあるよ。
忘れずに貼ってね！

チェックしたら9月7日（金）までに、通っている学校に提出しよう！

かんせいっ★

